

所管事務調査報告書

委員会名	社会文教委員会
調査研究 テーマ	「子どもを見守り育む地域社会について」 ～「社会的処方」による地域のつながりが子育ての孤立を救う～
テーマ設定の 背景	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の報道では、児童虐待やいじめなど子どもを取り巻く悲しい事件があとを絶たない。児童虐待やいじめ問題は、家庭の中や学校の中といった「閉じた環境」の中で発生する特性があり、大きな話題になったとしても、他人事として捉えられがちである。 ・少子化・核家族化の進行、地域のつながりの希薄化により、子どもや家庭を取り巻く社会環境が大きく変化する中、国も「子ども・子育て支援法」や「いじめ防止等のための基本方針」などを改定している。 ・飯田市においては、「第二期子育て応援プラン（令和2年度～令和6年度）」の策定や「飯田市小中学校 いじめ対策指針」の改定に着手しており、今後は具体的な計画の推進が期待されている。 ・委員会の調査研究活動として、虐待やいじめなどの発生を地域として予防できるよう、「地域の応援による子育てや見守り」や「共助の実践による地域福祉の充実」について、調査研究を進める。 ・さらに、いいだ未来デザイン2028の「目指すまちの姿」に繋げることを目指し、「子どもを見守り育む地域社会について」を調査研究テーマに掲げる。 ・地域の温かな声かけが家庭の中に届くような、風通しのよい地域づくりを考えていく。
調査研究の 経過・今後の 取り組み	<p>[課題整理]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待に関しては、現状や虐待防止に関する取り組みを把握し、委員会としての取り組みの方向性を検討する。 ・特に、市の相談窓口である「飯田市こども家庭応援センター（ゆいきっず）」の状況に関しては、関係機関との連携も含めて調査研究を進める。 ・また、「地域の応援による子育てや見守り」の視点で、各地区の取り組みについても調査研究する。 ・小中学校のいじめ対策に関しては、現状やいじめ防止に関する取り組みを把握し、委員会としての取り組みの方向性を検討する。 ・議会による行政評価や予算審査・決算審査においても、調査研究活動と連動させて、「児童虐待」や「いじめ」を防止する視点をもって審査に臨む。

所管事務調査報告書

調査研究の経過・今後の取り組み	<p>[取扱経過]</p> <p>[令和元年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 7月2～4日 管外視察 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県奈良市：奈良市いじめ防止基本方針について ・滋賀県草津市：草津市子ども・子育て支援事業計画について ➤ 7月22-23日 委員会（分科会） ※議会による行政評価：説明質疑 ➤ 8月6日 委員会（分科会） ※行政評価意見集約 ➤ 9月10-11日 委員会（分科会） ※決算認定審査を通しての質疑 ➤ 9月11日 課題共有型円卓会議 <p>◇飯田市の「子ども家庭支援の現状」と課題の共有 ～子どもを虐待から守るために～</p> <p>[進行・コーディネーター役] 龍谷大学 政策学部 教授 土山 希美枝 氏</p> <p>[話題提供者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①長野県飯田児童相談所 所長 塚田由美 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・管内の「児童虐待」の実態について ②飯田市こども家庭応援センター（要対協事務局）所長 簗和巖 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・市の子育て相談の実態や、子育ての行き詰まり予防の取組について ③飯田市教育委員会 教育相談員 大蔵和幸 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育環境に何らかの問題が考えられる児童ケースについて ④飯田市主任児童委員長（NPO おしゃべりサラダ代表）松村由美子 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て中の家庭の代弁者として <ul style="list-style-type: none"> ➤ 9月20日 議会による行政評価に関し市へ提言 いいだ未来デザイン2028 基本目標3、4、5、6、7に対しての提言 ➤ 9月25日 協議会勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・議会報告会の運営について協議 ➤ 10月10月1日～10日 議会報告会（7ブロック） <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもを見守り育む地域社会について」を第2分科会のテーマとして設定し、意見交換を実施。課題共有型円卓会議の手法を応用し、話題提供者からの発表とグループセッションによる対話で構成。471件の意見が寄せられた。（社会文教委員会：委員7名／毎回交替して進行を担当） ・話題提供者からの発表 → グループセッション（数人のグループで話し合い） → 振り返りとまとめ（各グループからの発表） → 話題提供者のコメント ➤ 12月11日 協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・議会報告会で寄せられた意見への対応協議・共有
-----------------	---

所管事務調査報告書

調査研究の経過・今後の取り組み	<p>[令和2年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 2月3日 協議会勉強会 ※執行機関側との意見交換、現状確認 ・「第二期子育て応援プランについて」(子育て支援課) ➤ 2月6日 協議会勉強会 ・執行機関側との意見交換、現状確認 ・「飯田市小中学校いじめ対策指針」の改定案について(学校教育課) ➤ 2月13日 協議会勉強会 ・今後の委員会活動(調査研究)について協議 ➤ 3月9・10日 委員会(分科会) ・当初予算審査を通しての質疑 ➤ 4月14日 管内視察(コロナの影響により中止※視察場所変更 7/3 実施) ・(当初案)[子育て支援課]地域子育て支援拠点事業 ➤ 5月8日 協議会勉強会 ・飯田市の「母子保健事業」について…保健課保健師と意見交換 ➤ 5月21日 協議会勉強会 ・地域福祉課題検討会について 健康福祉部と意見交換 書籍「社会的処方」の読み合わせ ➤ 6月14日 「社会的処方」オンラインイベントの視聴(有志) ➤ 6月18日 協議会勉強会 ・書籍「社会的処方」の読み合わせ ・議会報告会の分科会運営について協議 ➤ 6月24日 協議会勉強会 ・書籍「社会的処方」の読み合わせ ・議会報告会の話題提供者について協議 ・教育委員会公民館主事と意見交換 ➤ 7月3日 協議会勉強会 ・議会報告会の話題提供者について、7/29 話題共有型えんたく会議検討 ➤ 7月17日 協議会勉強会 ・7/29 話題共有型えんたく会議検討 ➤ 7月29日 課題共有型えんたく会議 ・飯田市の「子育ての現状」と課題の共有 ～『社会的処方』による地域のつながりが子育ての孤立を救う～ ・従来型の勉強会(執行機関側からの説明会)から脱却。議会、執行機関等の関係者が課題を共有し、一緒に語り合う場へ。 <p>[進行・コーディネーター役] ①龍谷大学 政策学部 教授 土山 希美枝 氏 [話題提供者]</p>
-----------------	--

所管事務調査報告書

	<p>②飯田市保健課 保健指導係長 片桐 礼子 氏 ・市の子育て相談の実態や、子育ての行き詰まり予防の取組について</p> <p>③座光寺保育園長 野神 美穂 氏 ・保育の現場から見える最近の「子育て環境」</p> <p>④飯田市立中央図書館 三穂分館長 久保田 初子 氏 ・地域活動から見える最近の「子育て環境」</p> <p>⑤NPO おしゃべりサラダ代表 松村 由美子 氏 ・つどいの広場から見える最近の「子育て環境」</p> <p>➤ 7月 21・22 日 委員会（分科会） ・議会による行政評価：説明質疑 ・協議会勉強会 ※課題に対し議員間で討議、方向性の共有</p> <p>➤ 8月 5・6・7 日 委員会（分科会） ・行政評価意見集約…議員間自由討議により提言及び提案事項の集約</p> <p>➤ 9月 1・2 日 委員会（分科会） ・決算認定審査を通しての質疑</p> <p>➤ 9月 2 日 委員会協議会 ・議会報告会に向けた意見交換</p> <p>➤ 9月 10・11 日 協議会勉強会 ・議会報告会に向けた意見交換</p> <p>➤ 9月 23 日 協議会勉強会 ・議会報告会に向けた意見交換</p> <p>➤ 9月 30 日～10月 9 日 議会報告・意見交換会 ・7ブロックで意見交換、第2分科会でえんたくの手法を応用して実施 ・テーマ：子どもを 見守り 育む 地域社会について （社会文教委員会：委員 7 名／委員が毎回交替して進行役を担当） ～「社会的処方」による地域のつながりが子育ての孤立を救う～ ・話題提供者からの発表 → グループセッション（数人のグループで話し合い） → 振り返りとまとめ（各グループからの発表） → 話題提供者のコメント</p> <p>➤ 10月 26 日 協議会勉強会 ・議会報告・意見交換会の振り返り及び分科会意見の扱いについて</p> <p>➤ 11月 5 日 協議会勉強会 ・議会報告・意見交換会の分科会意見の扱いについて</p> <p>➤ 11月 13 日 協議会勉強会 ・議会報告・意見交換会の分科会意見の扱いについて ・予算提言に向けて、議会報告・意見交換会での意見を取りまとめ</p> <p>➤ 11月 18 日 協議会勉強会 ・教育委員会との勉強会 ほか</p>
--	---

所管事務調査報告書

11月25日 予算決算委員会前期全体会で社会文教分科会座長から「コロナ禍における「子育ての孤立」を防ぐための予算措置」についての提言を報告し、委員会で共有。(全委員)

12月25日 本会議において予算決算委員長が、委員会の総意として「コロナ禍における「子育ての孤立」を防ぐための予算措置」についての提言を報告。本会議終了後、議長から市長へ提言書を手交。

- 12月7日 協議会勉強会
 - ・教育委員会との勉強会 ほか
- 12月11日 協議会勉強会
 - ・市立病院との勉強会 ほか
- 12月11日 協議会 ※議会報告会で寄せられた意見のまとめ

〔令和3年〕

- 1月7日 協議会勉強会
 - ・教育委員会との勉強会 ほか
- 2月8日 協議会勉強会
 - ・いいだ未来デザイン中期計画について
健康福祉部所管基本目標（6、7、8） 執行機関と意見交換 ほか
- 2月8日 協議会勉強会
 - ・いいだ未来デザイン中期計画について
教育委員会所管基本目標（3、4、5） 執行機関と意見交換 ほか
- 3月2・3日 委員会（準備会） ※当初予算審査を通しての質疑
 - ・所管事務調査等のまとめの確認
- 3月19日 本会議（閉会日）
 - ・所管事務調査 報告、所管部署へ提案

〔調査研究結果〕

- ・社会文教委員会では、「子どもを見守り育む地域社会について」を調査研究のテーマに据えて、2年間にわたり学習会や意見交換会を重ねてきた。同時に委員会としては、予算・決算の審査や「いいだ未来デザイン2028」への提言を通して、調査研究のテーマに関する活動を行ってきた。
- ・市では「第二期子育て応援プラン（令和2年度～令和6年度）」の策定や「飯田市小中学校 いじめ対策指針」を改定し、今後は具体的な計画の推進が期待されている。
- ・2年間の委員会活動では、「課題共有型えんたく会議」の手法を活用し、子育てに関わる団体や行政機関の皆さんとの意見交換を実施した。

所管事務調査報告書

- ・また、議会報告・意見交換会では、「えんたく」の手法を意見交換に活用し、地域活動などの「社会的処方」が孤立に悩む誰かの薬となることを願って、市民の皆さんと課題の共有に取り組んできた。
- ・令和2年の議会報告・意見交換会では、『『社会的処方』による地域のつながりが子育ての孤立を救う』をテーマにしたところ、コロナ禍での子育てに関する悩みや要望を聴くことができた。特に緊急性の高い「情報発信の強化等」について、「予算に関する提言書」としてまとめ、予算決算委員会全体会で村松座長が報告した。本会議では予算決算委員長から報告がなされ、全議員が共有した後、議長から市長へ提言書が手交された。
- ・令和3年度当初予算では、「三つの柱で市民の命と暮らしを守りつつ、新たなチャレンジ」として予算が編成され、新型コロナの対応を最優先としている。いまだ終息しない新型コロナは、地域のつながりを中断させて、心の不安を生み出している。これらに対応するためには、委員会で調査研究を進めてきた『『社会的処方』による地域のつながり』を構築することこそが重要である。
- ・そこで、委員会での調査活動を踏まえ、課題解決のための提案事項を確認し、令和3年3月に関係部署に対する提案としてまとめた。

子どもを見守り育む地域社会に関する政策提案（案）

（～「社会的処方」による地域のつながりが子育ての孤立を救う～）

社会文教委員会では、「子どもを見守り育む地域社会について」を調査研究のテーマに据えて、2年間にわたり学習会や意見交換会を重ねてきた。同時に委員会としては、予算・決算の審査や「いいだ未来デザイン 2028」への提言を通して、調査研究のテーマに関する活動を行ってきた。

市では「第二期子育て応援プラン（令和2年度～令和6年度）」の策定や「飯田市小中学校 いじめ対策指針」を改定し、今後は具体的な計画の推進が期待されている。

2年間の委員会活動では、「課題共有型えんたく会議」の手法を活用し、子育てに関わる団体や行政機関の皆さんとの意見交換を実施した。

また、議会報告・意見交換会では、「えんたく」の手法を意見交換に活用し、地域活動などの「社会的処方」が孤立に悩む誰かの薬となることを願って、市民の皆さんと課題の共有に取り組んできた。

令和2年の議会報告・意見交換会では、『社会的処方』による地域のつながりが子育ての孤立を救うをテーマにしたところ、コロナ禍での子育てに関する悩みや要望を聴くことができた。特に緊急性の高い「情報発信の強化等」について、「予算に関する提言書」としてまとめ、予算決算委員会全体会で村松座長が報告した。本会議では予算決算委員長から報告がなされ、全議員が共有した後、議長から市長へ提言書が手交された。

令和3年度当初予算では、「三つの柱で市民の命と暮らしを守りつつ、新たなチャレンジ」として予算が編成され、新型コロナの対応を最優先としている。いまだ終息しない新型コロナは、地域のつながりを中断させて、心の不安を生み出している。これらに対応するためには、委員会で調査研究を進めてきた『社会的処方』による地域のつながりを構築することこそが重要である。そこで、以下の2点について提案する。

- 1 コロナ禍において、「孤立を防ぐための居場所」や「地域や友人との多様なつながり」が重要となっている。子育て世代を対象に「社会的処方」やオンラインの活用など「新しい生活様式」に対応した つながり（双方向）を構築されたい。
- 2 子育て世代を含めて、「誰一人取り残されないコミュニティ」を形成するために、まちづくり委員会や公民館、NPO 団体、企業などの多様な主体が連携・協働することが重要である。各団体の運営に関与している自治振興センターの所長や公民館主事、保健師等が連携して、各地区の実情に応じた「社会的処方」の研究・実践を進められたい。（コミュニティの中で笑顔で暮らせるために、社会的処方の考え方を各地区で文化にしていく）